

1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう 題材「サンゴの海の生きものたち」光村図書2年上

2 目標

- サンゴの海の生きものの共生関係や体の仕組みについて、興味を持って読もうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- サンゴの海の生きものたちが互いに関わり合っていることを、事柄の順序に気をつけながら読み取っている。  
(読む能力)
- 興味を持った生きものについて調べ、文の順序などに気をつけて図鑑を書くことができる。  
(書く能力)

3 指導上の立場

- 児童の実態

削除しています。

○題材観

「サンゴの海の生きものたち」は、サンゴの海に暮らす生きものたちが、関わり合っている共生について書かれた説明文である。イソギンチャクとクマノミといった子どもたちになじみ深い生きものが出てきたり、共生していることに驚いたり大変興味を持って読み進めることができると思われる。本教材は、『話題提示・具体例①・具体例②・まとめ』という説明文に多く見られる文章構成である。「～でしょうか。」という問いかけの文章もあり、子どもたちにとっては、何について書いてあるのか見通しが持ちやすい。しかし、これまでの説明文に比べ、登場する生きものの数が多く、関係も入り組んでいるため混乱することも予想される。教科書の挿絵と文章を照らし合わせながら、しっかりと読み取っていききたい。

○本単元で工夫する点や手立て

**領域を有機的に結びつけた関連的な指導（読む・書く）  
説明文教材に、表現活動（書く活動）を取り入れた、単元構想の工夫**

- ・ワークシートを用いて、整理しながら読み取る。  
共生関係にある生きもののかかわり合いをわかりやすくとらえるために、具体物を取り入れる。  
ワークシートには、二つの生き物を対比的に書けるようにし、かかわり合いを読み取らせたい。

**学びを重ねていくことができるような系統的な指導  
児童に「学び方」「読み方」を意識させ、学んだことが使える力を育てる指導の工夫**

- ・大事な言葉にサイドラインを引いたり、写真とのマッチングを行ったりする。  
主語に注意しながら、文章を読み、何について書かれているのかを判断して線を引いたり、文章と写真のマッチングができるようにする。

**内容のおもしろさとそれを支えている書きぶりのおもしろさの両面を読む学習活動の工夫**

- ・「でも、～ありません。」という文で前後をつなぐことで、写真で見えるものと実際は違うということ  
を伝え、読者の興味をひきつけていることを学習する。
- ・「題」「書き出し」「まとめ」を押さえ、「なか」の部分が二つに分かれていることを理解する。

○授業改善の視点

「未知の事柄に対する感動を大切にするとともに、書かれている内容を正確に理解する授業」

4 指導計画（全10時間）

第1次 学習の見通しをもつ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）

- 第1時 海の生きものたちの写真見て、これから学習することを確認する。  
本文を読み、疑問や驚いたことを発表する。
- 第2時 本文を読み、問いがどこにあるか、まとめがどこにあるかを確認し、学習のめあてをもつ。  
難解語句について学習する。

第2次 生きもののかかわり合いを読み取る。・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）

- 第1時 イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。
- 第2時 イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。
- 第3時 ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取る。（本時）
- 第4時 「題」「書き出し」「まとめ」を押さえ、「なか」の部分が二つに分かれていることを理解する。

第3次 生きもの図鑑をつくる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）

- 第1時 その他の図書教材を読んだり、映像を見たりする。
- 第2・3時 生きもの図鑑を作る。
- 第4時 作品の交流をする

5 評価

- 様々な海の生きものたちについて、興味を持って読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 生き物たちのかかわり合いを、事柄の順序に気をつけながら読み取ることができる。(読む能力)
- 海の生きものたちについて書かれた本に興味を持って読み、生きものの特徴をとらえ、わかりやすくまとめている。(書く能力)

6 本時案 (第二次第3時)

目 標	○ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを対比的にまとめることにより、互いにかかわり合っていることを読み取ることができる。	
学習活動	指導・支援・評価に関する配慮事項など	
1 本時のめあてをつかむ。	○前時の学習を振り返り、学習のめあてを確認する。	
ホンソメワケベラと大きな魚たちは、どのようなかかわり合いをしているのでしょうか。		
2 ホンソメワケベラと大きな魚について書かれているところを見つける。	<p>○本時の範囲を読んだ後、ホンソメワケベラと大きな魚について書かれているところに色分けてサイドラインを引く。この際、一人調べの時間を十分に確保する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《支援のポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマノミとイソギンチャクの学習を想起させ、どんな言葉にサイドラインを引いていたか思い出させる。</li> <li>・「大きな魚たちは」や「ホンソメワケベラは」という、主語を見つけさせる。</li> </ul> </div>	
3 サイドラインを引いたところを発表し、二つの魚の行動を全体場で確認する。	<p>○板書で、二つの魚を対比的にまとめる。その際、子ども達にもワークシートにまとめさせていく。</p> <p>○ホンソメワケベラと大きな魚の模型を黒板に貼り、かかわり合いを表現させ、確認する。</p> <p>○本当に二つの生き物がかかわり合っているのかを考える。</p> <p>◎ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを見つけ、読み取ることができたか。(読む能力)</p>	
4 ホンソメワケベラと大きな魚たちは、どのようなかかわり合いしているのかを考える。	<p>○問いである「どのような生きものがどのようなかかわり合いをしているのか」に立ち返り、まとめを考える。</p> <p>○イソギンチャクとクマノミのところには、「守りあっている。」というまとめがあるが、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いには、まとめがないので、その部分を考えさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《支援のポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手く書けない児童には、「ホンソメワケベラは、」「大きな魚は、」といった書き出しや「かかわり合っています。」という文末を使うように助言し、書きやすくする。</li> </ul> </div> <p>◎ワークシートに、かかわり合いを書くことができたか。(書く能力)</p>	
5 初発の感想で出ていた子どもたちの疑問を考える。	<p>○「なぜ、大きな魚には名前がないのか？」という質問をする。大きな魚は、一つだけではなく、たくさんの種類の魚たちがいるんだということに気づき、そこに生まれるであろう生き物たちのかかわり合いのすばらしさや驚きを大切にしたい。</p> <p>○意見が出にくい場合には、『たくさんの魚たちがやってくるから、名前だけでなく、大きな魚たちという言い方になっている』ということに気づきやすくするために、挿絵以外の大きな魚たちの写真を用意する。</p>	